

Windowsは、なくなるか。

～ 近未来予想図～

OSとアプリの栄枯盛衰
勝ち続けるMS。

戦国武将物語が好きな人は、現代のコンピュータにおける、OS、アプリでの各社の戦いにきっと心躍らされるに違いありません。

それほど、OS、アプリの戦いは熾烈です。

例えば、代表的アプリとして日本語ワープロソフトをとっても、古い順に並べると、

- 1 松 [管理工学研究所](#)
- 2 一太郎 ジャストシステム
- 3 ワード Microsoft(以下、MSと表記)

という具合に、天下が変わっています。

天下を取れなかったが、いい戦いをしていたものとして、[デービーソフト](#)のp1.exeや、専用ワープロではシャープの書院など、随分と多くの製品が世に出ていったのです。

しかしながら、すでに管理工学研究所のWebには、松を開発したことは書いてあっても、松の新バージョン、という話はありませんし、デービーソフトはサポートを取りやめ、一世を風靡した一太郎のジャストシステムも、2期連続赤字決算となっています。

しかし、多くのファンがいたのは事実で、[google](#)でデービーソフト、p1.exeで検索をすると、驚くほど多くの検索結果が出てきます。

ブラウザにしても、当初は

Netscapeが90%以上の利用率だったものが、MSの猛烈な巻き返しで、今や90%以上はMSのインターネットエクスプローラ(以下、IEと表記)になっています。

そして、PC用のOSでも、MSのWindowsの一人勝ちが続いています。

SunとMSの代理戦争？
オープンオフィス

オフィスソフトの無料版があるのをご存知でしょうか。

オープンオフィスと言います。[Openoffice.org](#)で日本語版を無料でダウンロードし、利用することができます。

このソフトは、元はSunがStarSuiteという名前で開発したものです。それをオープンソース化しました。

今でも、StarSuiteは有料ソフトとしてSun、[ソースネクスト](#)から販売されています。

オープンオフィスは無料で利用できる、ということで、急速にユーザーを集めています。

MSはブラウザ戦争においては、有料のNetscapeに対抗して、無料のIEで勝利を得ました。

今度は逆の立場で、オフィスの無料ソフトにユーザーを奪われるかもしれません。

SunとMSとは、犬猿の仲です。SunはMSに少しでもダメージを与えたくて、StarSuiteのオープンソース

化に踏み切ったとも考えられます。今回の戦いは、ワープロなどの基本的ソフトウェアは無料であるべきだ、というような高邁な理想ではなく、SunとMSの企業戦争の一部かも知れません。

インターネットとオフィスがあれば十分。

Windowsにとってかわるのは？

PCが普及するにつれ、PCに要求される能力がはっきりとしてきました。

それは、「インターネットでWebとメールが見れて、オフィスがあれば十分」ということです。

そのほかのソフトもあったらいいけど、別になくてもいい、という顧客の志向が明確になってきたのです。

今でも、Linuxでオープンオフィスをインストールすれば、OS、アプリ料金がゼロとなります。必要十分な機能を持った、PCが格安で手に入ります。

では、LinuxがWindowsにとってかわるのでしょうか。

私は、やや専門的すぎるLinuxは天下を取れないと見ています。

私たちの身の回りの家電に広く使われている、日本人が作ったOS、[TRON](#)、Windowsにとってかわるのは、TRONであってほしいと希望もこめて、思っています。